

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 3月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070700222
法人名	医療法人 上野会
事業所名	グループホームつどい
所在地	館林市赤生田町2042 (電 話) 0276-76-7770

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月8日

## 【情報提供票より】(平成22年1月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 12.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000円/月(1,500円/日)	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	1日 1,250 円		

### (4) 利用者の概要(1月16日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	70歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえの医院、うえの歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所独自の『つどい新聞』の紙面には、利用者の日常生活の写真や事業所周辺の出来事、ご家族へのお知らせ、利用者の俳句、スタッフこぼれ話等が写真と文章により表現されている。新聞は毎月の発行であり、記事からは理念に基づく利用者本位の生活(暮らし)の様子、利用者との職員との明るい表情からは理念にある「いっしょに」を思わせる支援であることが理解できる。また、診療所が母体であり、医療関係者との連携のもと24時間対応の緊急体制があり、本人や家族が安心している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は、運営推進会議や定例会議で報告されている。改善課題については各会議で話し合い、改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニット(楓、桜)毎に朝の申し送り時間を利用し、項目毎の振り返りと記入を20日間かけ全職員で行い、最終確認と記入を管理者が行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、偶数月の第3木曜を会議開催日としている。利用者の日頃の暮らしぶりを含めた活動や行事の報告、事故が起これば状況説明をしている。報告の割合が多かった会議を会議内容に応じ警察や消防の方、保健師等の広い分野からの参加を呼びかけ、話し合いが行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置、相談・苦情窓口の案内をつどい新聞に記載、外部苦情窓口連絡先の掲示等を行い、ご家族の意見、苦情、不安の表出ができるよう努力している。今のところはご家族からの個人的な要望であり即刻対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自治会に加入し、神社の掃除や寄付集め、地区まつりの準備等を管理者、職員が行っている。お祭りや運動会、児童館の行事には利用者、職員ともに参加し、地域の人々と交流している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々と交流し関係性を築きながら、暮らしを「たのしく、いっしょに、その人らしく」を根幹に独自性あるサービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りや定例会議の機会を利用し、職員同士で理念に基づいたサービスの実践・提供を確認している。また、玄関、職員室、事務室に掲示し、つどい新聞に記載して、家族や利用者ともに共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、神社の掃除や寄付集め、地区まつりの準備等を管理者、職員が行っている。お祭りや運動会には、利用者、職員ともに参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価は、月1回の定例会議や運営推進会議で開示検討されている。自己評価の「取り組みの事実」については、ユニット毎に朝の申し送りを利用して約20日間かけて作成し、日頃のケアの振り返りに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、偶数月の第3木曜日に開催している。従来からのメンバーに、地域の犯罪状況、防犯について等の議題では、警察の方が参加して行われている。また、今後も会議内容に応じて、消防士や保健師の方に参加依頼する予定である。各分野の情報とともに話し合いの結果をサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の「つどい新聞」を届けながら、日頃の利用者の様子を伝えている。また、市からの依頼で介護保険に関する委員を受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「つどい新聞」と個別記録(独自の書式)を、家族へ毎月送付している。金銭管理は各利用者毎の出納帳を作り、家族の訪問時に確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ホーム内及び法人内のサービス内容に関する相談・苦情等の窓口や外部の窓口である市介護高齢課等を重要事項説明書に明記し、玄関に掲示されている。また、管理者、職員ともに家族からの意見や要望等を期待し、傾聴する姿勢を常にもっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい環境づくりに努めている。退職する場合には、退職する職員本人から利用者へ伝えている。また、家族へ「おたより」でもあわせて通知している。利用者へのダメージを防ぐよう、できるだけ引継ぎには時間をかけて行えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人企画の研修が年6回あり、最近では「インフルエンザ」について勉強している。また、職員の経験年数や本人の希望に応じ、地域密着型サービス連絡協議会の各種研修や県主催の研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修を行い、相互訪問の活動を通じて交流と情報を交換し、日頃のケアの見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のデイサービスや介護老人保健施設を利用している方の入居希望が多いため、場の雰囲気に馴染んだ入居となっている。本人や家族と面接し、様子を見ながら事前体験(見学、宿泊)を選び体験してから入居を決め、サービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の「いっしょに」をモットーに、クリスマスの飾りつけやおやつ作り(おはぎやホットケーキ)、おしぼりたたみ、昔話を聞く等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、行動から本人の気持ちを感じ理解しており、家族来所時に再確認し、具体化している。太陽に向かって手を合わせることや朝は新聞を読むこと等を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者2~3名を1名の職員が担当し、月1回の定例会議で事実の情報に基づいて話し合いと課題を抽出し、家族の意見を伺い了解を得て介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の計画見直しは、6ヶ月を目安にしている。脳梗塞の発症、転倒による骨折で入院、退院後の計画は、医療関係者や職員、家族と相談しながら随時作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合により付き添いできない場合は、職員がかかりつけ医や眼科等への通院介助をしている。また、法人内施設のレクリエーションに参加したり、母体のクリニック職員と連携し24時間対応の協力体制がある等、必要に応じた柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による受診継続の確認は、入居時に行っている。ほとんどの方はホームの協力医である母体のクリニックを利用し、一般診療から緊急時、往診にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	『看取りに関する指針』を作成し、本人や家族に説明している。また、職員、医療関係者ともに指針を基に共通理解と連携がとれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時の言葉かけや日常の会話等は、利用者を尊重している。呼称は、本人からの希望で呼び、家族も了承している。個人情報に関する記録類は、事務室の鍵のかかる戸棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは概ね決められているが、利用者の状態や希望に応じ食事やお茶の時間、レクリエーションの参加等本人に合わせ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の資格をもつ職員を中心に利用者や職員と相談しながら、栄養バランスを考え利用者の嗜好を取り入れ、1週間から10日を目安に献立表を作成している。利用者は、じゃがいもの皮むきやテーブル拭き等の準備をしたり、職員とおしゃべりをしながらの楽しい食事が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は2ユニットで曜日を変えており、毎日入浴できる準備がされている。季節によってゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を使い心地よく入浴できるよう支援している。入浴を拒む方へは、タイミングと言葉を選び週2～3回の入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇の水やりをする、食堂・居間のカーテンを閉める、洗濯物をたたむ、キーボードを弾く、折り紙をする等本人の好みを活かした支援がされている。また、介護老人福祉施設の食堂をすし屋に見立てすし職人を招いて、握りすしが直接食べられる工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	半数の方が車いす使用であるが、天気の良い日は事業所周辺を散歩している。また、本人の希望で近くのコンビニエンスストアや大型スーパーに買い物に行ったり、年に2回車いすでも可能な場所を選び外食支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、防犯上夜間の玄関、裏口の出入口は施錠しているが、日中の出入りは自由である。また、無断外出者に対しては傾向を把握し、対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防士の指導で総合避難訓練を実施している。その他、月1回は自主訓練を行い、地震や火災が発生した場合の緊急時対応に向け全職員で努力している。しかし、避難訓練参加に対する地域人々への働きかけが行われていない。	○	運営推進会議のメンバーや自治会を通じて、地域の人々の総合避難訓練への参加と協力体制ができることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一覧表に1日の飲水量や食事摂取量を記録している。糖尿病の方へは、他の利用者と同じ献立を用いて食事量で調節している。また、利用者の状態に応じ食事形態を刻みや流動にして、経口摂取ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房とエアコンによる温度調整と自然光を取り入れた居間兼食堂であり、畳スペースも設けてある。畳スペースは昼寝や洗濯物たたみ等多目的に利用している。また、季節感を取り入れた飾りつけが程よくされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みののれんが各居室入口に掛けられたり、小テーブルや椅子、写真を飾り居心地よく過ごせる工夫がされている。また、居室内に設置されている洗面台は、本人の使いやすい高さに調節されている。		